

協働事業のさらなる 発展に向けて

～ 協働事業提案に基づく提言～

2006年8月

大和市協働推進会議

1 . はじめに

この提言は、大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例第13条第2項に基づき、大和市協働推進会議（渡辺精子代表）から大和市長へ行うものである。

2 . 経過

2006年度も公開性を基本として、一連の取組みを進めてきた。

提案募集説明会

- ・ 3月21日（火）14:00 - 17:00 参加者 約30名
- ・ 協働事業提案説明会の開催、新しい公共の取り組み事例紹介と協働事業を考えるワークショップの実施
- ・ 協働事業ガイドライン2006年度版により全体の流れと手続きを説明



提案募集

- ・ 期 間：4月1日（土）～5月19日（金）
- ・ 14件の応募：市民提案9件（新規提案4件、継続提案5件）行政提案5件
- ・ 協働事業提案相談会の開催（協働の拠点運営委員会相談部会）
4月23日（日）、27日（木）の2日間開催
4件の相談、うち提案1件



公開プレゼンテーション

- ・ 6月11日（日）13:30 - 16:30 参加者 約120名
- ・ 提案者の想いを共有し、事業化の芽を育てる場として開催
- ・ 市民相互の交流や学習の場



公開調整

- ・ 公開検討会（7月23日（日））までの約1ヶ月間
 - ・ 事業化の可能性や事業内容の幅を広げるとともに、市民と行政との相互理解を深める
- 【市民提案】
- ・ 提案者が関係情報を収集し、提案の主旨について担当課職員が理解を深める
- 【行政提案】
- ・ 提案担当課による提案主旨の説明、応募者との意見交換



公開検討会

- ・ 7月23日(日) 13:30 - 17:00 参加者数 約110名
- ・ 公開調整を経て、提案者と協働事業相手が今後の方向性や取組みについて、公開の場で検討する機会
- ・ 提案者・担当課・行政提案への応募者・推進会議委員・参加者からのポストイットコメントによる意見交換



協働推進会議から市長への提言

- ・ 8月4日(金) 14:00 - 16:00
- ・ 公開検討会での検討を受け、協働推進会議としての意見を提言

3 . 2005 年度からの改善点について

大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例(以下、「条例」という)の運用にあたっては、「成長するシステム」として、具体的な事例を積み重ねながら、多様性を尊重した柔軟でゆるやかな制度づくりを進めていくことが確認されている。

一連の公開のプロセスについては基本的に2005年度の流れを踏襲しているが、2005年度からの主な改善点は次のとおりである。

(1) 公開のプロセスの期間の短縮

協働事業提案制度へ提案された方から、提案の応募時から市長の検討結果までの期間が長いという声が多く寄せられた。この声に対応するため、公開検討会から提言そして市長の検討結果説明までの期間を、全体として1ヶ月短縮した。

(2) 公開プレゼンテーション・公開検討会のプログラムの変更

公開プレゼンテーションは、3年間の経験から提案者の想いをきちんと聞くために、提案者のプレゼンテーションと提案への質問を重視したプログラムとした。

また、公開検討会は、協働事業としての実現可能性を短期間で結論付けることはせず、協議が継続できるように相互の理解を促すためのプログラムとした。

(3) 提言書の作成手順の追加

協働推進会議から市長への提言書を作成するにあたり、事前に提案者が提言内容を確認できるプロセスを追加した。

(4) 行政提案支援チームによるブラッシュアップ

年々、行政提案の数は増えてきているが、行政担当職員も新しい取り組みに対して試行錯誤の状況である。協働推進会議として、行政への意見を伝えるのみではなく、一緒に考え、よりよい協働事業を推進するため、行政提案について担当課との協議を進め、提案のブラッシュアップを試みた。

4．提言区分について

(1) 提案された事業を実現するために

提案された事業は、提言及び検討結果報告をもって、一つの区切りを迎える。昨年度は「検討継続」という項目を新たに盛り込んだが、これは今すぐに協働事業とならなくとも、行政との協議を継続実施していく中で、協働事業の可能性を見出していくことを求めたものであった。しかし、検討継続とされた事業がその後、充実した協議ができたかといえば協働推進会議の関わり方も含め不十分なところがあり、提案者にとって必ずしも満足のいくものではなかった。

協働事業提案制度により提案された事業は、事業の効果を高める手段として協働事業を行うものである。そこで、提案に込められた提案者の想いをとらえ、いかなる方向が事業の目的達成に向けて効果的かということを検討し、協働推進会議としてその方向性を意見として付すこととする。

協働推進会議として考える提案事業の方向性は次のとおりである。

【市民提案】

- **協働事業として推進してほしい**

内容：協働事業として事業を実施することが効果的であると考ええる事業

- **行政への政策提案として受け止めてほしい**

内容：行政が取り組むことが必要と考ええる事業

- **市民事業として事業を実施してほしい**

内容：行政との協働事業ではなく、市民等の自由で継続的な事業として実施することが効果的と考ええる事業

(2) サポート体制

提案された事業内容にふさわしいサポート体制の重要性については、強く認識している。このことについては、協働推進会議の役割の検討とあわせ、今年度の重要検討事項として早急に議論をしていきたい。

5 . 重点検討事項

協働事業提案の制度は、毎年の実績を検証しながら少しずつ成長してきている。このことは、「協働事業ガイドライン」として共有されてきているが、4年目を迎えた今年度に推進会議として重点的に取り組むべき課題を以下にあげる。

(1) 協働推進会議の役割

協働推進会議は、多様な価値観と多様な主体による「新しい公共」という社会のあり方をめざして、条例運用の中心的組織としてその役割を担ってきた。設置4年目を迎え、ここで再度、協働推進会議が果たすべき役割を見つめなおし、役割にあった体制づくりを進めていきたい。

協働推進会議に求められる役割の一つとして、提案された協働事業への対応だけではなく、協働事業の芽となる市民活動、市民事業を創出し共育していく仕組みを考えていくことが必要となっている。行政提案事業が増える中では、行政提案を受けることのできる力を備えることが市民側に求められることとあわせ、市民提案事業の数を増やしていくためにも、それは緊急な課題だといえる。協働事業の芽を創出し共育していくために、現在ある活動資金支援制度とあわせ、どのようなことができるか検討していきたい。

特に、昨年度も課題として掲げた実践中の市民活動や協働事業から寄せられる相談への対応やコーディネート機能についても仕組みづくりの必要性を強く認識している。

これらは、協働推進会議だけで担うことができるものではない。協働推進会議の体制づくりとあわせて、協働の拠点運営委員会との連携・協力を進めるなかで、大和市民活動センター機能の充実を図るなど、仕組みを整えていきたい。

(2) 行政提案について

行政提案について、徐々に事例が積み上げられているが、これまでは市民からの提案を想定した制度として仕組みがつくられていることから、行政提案を実施していく際に不都合が生じている。行政提案においては、その性質に適した仕組みとルールの検討が必要になってきている。

(3) 継続協働提案について

今回、3年目を迎えた協働事業の再提案プロセスを通じて、行政施策の変化や法制度の改正等に対応するため、市民団体との協働事業を縮小したい等「縮み思考的な動き」があることが顕在化した。これらの対応策の検討にあたっては、計画段階から市

民等の参加を積極的にはかって、大和市らしい「新しい公共」を実現することが必要だと考える。

6. むすび（大和市協働推進会議代表 渡辺精子）

多様な主体による2006年度の協働事業提案は「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づき、公開の過程を大切にしながら進められてきた。

新規市民提案4件、新規行政提案5件、継続市民提案5件の計14件の提案それぞれを協働事業への実現に向けて、活発な議論をしながら丁寧に調整・検討を行った。

特に検討の段階では、提案者が提案に込めた想いをどうしたら効果的に実現出来るかを考え、協働推進会議として市民提案の提言区分を協働事業として推進してほしい、行政への政策提案として受け止めてほしい、市民事業として事業を実施してほしいの三つの方向性を意見として付すこととした。

また、今年は協働事業を開始して4年目に入り、3年を経過した事業が継続市民提案としてあがり検討した。

このことを踏まえ、提言書の表題を「協働事業のさらなる発展に向けて」とし、多様な主体が協働事業のさらなる発展に向けて新しい公共をどのように担い、取り組んでいくかが今後大事になってくる。

その担い手として重要な役割にあるのが協働推進会議であり、提言書「5. 重点検討事項」で「(1) 協働推進会議の役割」を明記した。

もう一方の担い手として市の果たすべき役割は大きいと考える。新しい公共の実現に向けての具体的な行動計画が必要ではないか。たとえば「やまと地域の底力事業」が実施されているが、テーマによっては協働事業と連携をとった方がより良い事業が展開される可能性があり、その視点こそ大事と思い、企画政策課と市民活動課の協働作業を期待する。また、事業の期間が単年度を望む担当課の声があるが、事業内容に則して期間の決定をお願いしたい。

14件の協働事業提案の内容、事業の方向性、提案事業に関する意見、2005年からの改善点、重点検討事項などの事柄が盛り込まれた提言は、市の検討結果を待ち事業の具体化に向けて次の段階へと進む。

今後の展開は提案者と市が中心となるが、みんなでつくり育てる新しい公共を充実させ、発展させるためにも、この提言に対する市長の誠実な対応と判断をお願いするものである。

協働事業提案一覧

類型	番号	提案事業名	推進会議として考える提案事業の方向性
新規市民提案	1	ダメ！ゼッタイ！薬物乱用防止教育	協働事業として推進してほしい
	コメント	薬物乱用は深刻な問題であり提案者の活動に敬意を表す。地域に根ざした活動をされている団体が学校と連携し、課題に取り組んでいくことは必要。できるところから協働事業として推進してほしい。	
	2	病児保育の周知・広報事業	協働事業として推進してほしい
	コメント	情報の提供についても、大切な協働事業だと考える。いろいろな情報の提供・共有があるが、まず提案者の求めている提案内容を協働事業のはじめの一歩として進めてほしい。	
	3	ママリーダー	協働事業として推進してほしい
	コメント	提案者は、特技を活かした子育て人材の育成・コミュニティ形成を提案していると理解する。今年度は、きちんと議論して基準作りに取り組んでほしい。市は、協働事業として基準作りにあたっての協力をお願いしたい。	
	4	移動制約者の外出介助サービス事業	協働事業として推進してほしい
コメント	事業は、非常に重要なものであると理解する。協働事業として推進してほしい。		
新規行政提案	5	緑野青空子ども広場ツリーガーデン管理運営事業	協働事業として推進するにあたって考慮点あり
	コメント	提案担当課の事業の運営に関する構想について、応募団体が不安を感じている。ツリーガーデンの構想について、応募団体との協議を通じて、ビジョンを作ってほしい。	
	6	水再生とみんなでつくるピオトープ	協働事業として推進してほしい
	コメント	地域の方を中心に、はじめから市民が関わって作り上げる姿勢は協働事業として素晴らしい。検討段階から専門家の意見を聞きながら、生態系に配慮したピオトープづくりを進めてほしい。	
	7	「男女共同参画」わたしが変われば、社会も変わる事業	協働事業として推進してほしい
	コメント	事業への想いを持った個人を集め、これをチームの力に変えて、構成される団体との協定締結を進めてほしい。	
	8	ドッグラン設置事業	協働事業として推進してほしい
	コメント	大和市らしい、地形・自然環境を配慮したドッグランの設置を検討してほしい。ドッグランを設置することの説明・PRが不足しているように感じる。	
	9	地域防犯活動「レベルアップ」事業	協働事業として推進するにあたって考慮点あり
コメント	協働よりも委託先を選考するというような感じがあるが、複数の応募者による協働事業の可能性も検討してほしい。		
継続市民提案	10	青少年自立支援事業	市民事業として実施してほしい 行政による事業への協力
	コメント	互いの想いが異なる現状では、協働事業として事業を実施していくことは難しいと考える。市民事業として、課題に取り組む際に、行政も支援をしていくことが大切であると考える。	
	11	地域と学校の連携による大和市新渋谷中学校学校開放事業	協働事業として推進してほしい
	コメント	地域・学校との連携を深める中で、継続して協働事業として実施してほしい。	
	12	子育て家庭サポート事業	協働事業として推進してほしい
	コメント	今後も利用者のニーズにあったサービスが提供できるよう、ファミリーサポートセンターに移行しても、協働事業として事業を継続してほしい。	
	13	移動制約者の外出支援事業	協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい
	コメント	これまでの協働事業を通じた実績から、移送サービスに関しては、協働事業として事業を継続してほしい。一方、地域公共交通に関する調査研究については、現状では行政への政策提案と考える。	
14	身体障害者、高齢者の通院・外出サービス事業	協働事業として推進してほしい	
コメント	これまでの協働事業を通じた実績から、移送サービスに関しては、協働事業として事業を継続してほしい。		

1. 事業名	ダメ！ゼッタイ！薬物乱用防止教育																		
2. 提案者	大和シティライオンズクラブ																		
3. 担当課	教育委員会指導室、安全なまちづくり課、社会教育課																		
4. 事業の目的	薬物乱用防止教室と啓発活動による薬物乱用者又は2次・3次的被害者のない社会環境づくり																		
5. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教室を行政と一体となってやっていきたい。 ・市立小学校・中学校に取り入れてもらいたい。 ・何かのイベントの時にパネル等を展示して啓発活動をしていく。 ・生徒だけでなく、教育者にももっと認識していただきたい。 																		
6. 提案者の市に期待すること	1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動 4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整 7. その他 【教育委員会、校長会等に呼びかける協力】																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;">1)協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階</td> <td style="width: 25%;">2)具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階</td> <td style="width: 25%;">3)政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)</td> </tr> <tr> <td>提案者の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当課の判断</td> <td></td> <td></td> <td>(指導室) (安全なまちづくり課)</td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(7)</td> <td>(6)</td> <td></td> </tr> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階	2)具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階	3)政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)	提案者の判断				担当課の判断			(指導室) (安全なまちづくり課)	推進会議委員からのアドバイス	(7)	(6)	
	1)協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階	2)具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階	3)政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)																
提案者の判断																			
担当課の判断			(指導室) (安全なまちづくり課)																
推進会議委員からのアドバイス	(7)	(6)																	
8. 提案事業の方向性	協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他(行政による事業への協力)																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用は深刻な問題であり提案者の活動に敬意を表す。 ・しかし、学校現場へのアプローチをしていくにあたって、提案者側の想いと現実に学校現場が抱えている課題やそれに対応する組織の仕組みについて乖離があるように思う。 ・地域に根ざした活動をしている団体が学校と連携し、課題に取り組んでいくことは必要。 ・できるところから協働事業として推進してほしい。 																		

10.市に対して具体的に検討を要請する事項	協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none">・校長会へのPRを実施し、関心のある校長先生に公開プレゼンテーション・公開検討会への参加を求めることはできないか。・市長から教育委員会に対し、協働事業の趣旨について積極的なアプローチをお願いしたい。
-----------------------	---

1. 事業名	病児保育の周知・広報事業																		
2. 提案者	もみの木医院病児保育室																		
3. 担当課	児童育成課																		
4. 事業の目的	<p>1. 厚生労働省の推し進める少子化対策の一環である「病児保育」について、理解を深めるとともに、市内唯一の病児保育室の存在を市民に周知徹底する。</p> <p>2. 既存の保育園、幼稚園に対し、病児保育の必要性、重要性を認識してもらい、利用の推進をはかる。</p> <p>働く母親が増えている反面、子供が病気になったとき見てくれる人がいないのが実情である。発熱している子供に解熱剤を与えて登園させている例が後を絶たない。そんなときのために病児保育室があるのに知られていないからか、利用者は低迷している。低迷の理由は、「病児保育」という言葉が定着していないこと、過去の習慣で保育園で発熱した場合も健常児の保育を犠牲にしてまでも保育園が対応してきたことで、病児だけでなく、健常児、保育士、働く母親にとっても不幸な事態が続いていることである。これらの点をぜひ改善したい。</p>																		
5. 事業の内容	<p>病児保育により、児童には看護を伴う保育を提供し児童福祉の充実を、保護者には就業状況の改善を提供する。</p> <p>病児保育とは、病初期から回復期にあり、集団保育が不可能な子どもを、医師・看護師・保育士が連携して看護保育するしくみである。もみの木医院は診療科目に小児科を掲げており、もみの木医院病児保育室は小児医療の整った私設保育施設として平成17年6月に開設し、3ヶ月児から小学3年生までの児童を受け入れ、感染症対策のため、おたふく風邪と水疱症を患った児童向けの感染症隔離室も設置している。</p> <p>将来構想 小児科医院、病児保育室、保育園の3つを統合した施設設置により、児童福祉に貢献したい。</p>																		
6. 提案者の市に期待すること	<p>1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動</p> <p>4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整</p>																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1) 協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階</th> <th>2) 具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階</th> <th>3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提案者の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当課の判断</td> <td></td> <td>(児童育成課)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(4)</td> <td>(5)</td> <td>(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1) 協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階	2) 具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)	提案者の判断				担当課の判断		(児童育成課)		推進会議委員からのアドバイス	(4)	(5)	(1)
	1) 協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階	2) 具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)																
提案者の判断																			
担当課の判断		(児童育成課)																	
推進会議委員からのアドバイス	(4)	(5)	(1)																

<p>8．提案事業の方向性</p>	<p>協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他（行政による事業への協力）</p>
<p>9．協働推進会議の提案事業に関するコメント</p>	<p>・情報の提供についても、大切な協働事業だと考える。いろいろな情報の提供・共有の方法があるが、まず提案者の求めている提案内容を協働事業のはじめの一步として進めてほしい。</p>
<p>10．市に対して具体的に検討を要請する事項</p>	<p>協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の病後児施策に関するビジョンの提示。 ・現在行っている情報の提供のほか、可能な周知・広報活動について。 ・病児保育のニーズ調査が必要であると考え、その実施の可否。

1. 事業名	ママリーダー
2. 提案者	NPO 法人 地域家族しんちゃんハウス
3. 担当課	児童育成課
4. 事業の目的	<p>本事業は以下の2点を目的とする。</p> <p>乳幼児期の子を育てる母親あるいは父親が居住地域においてコミュニティを形成し、子育ての情報を日常的に交換する。</p> <p>乳幼児期の子を育てる母親あるいは父親が身近に相談できる他者を知ることによって安心感を得る</p>
5. 事業の内容	<p>子育てに関する技能・知識を有する人を認定し、活動の促進を図ることで相談役・コミュニティリーダーになってもらう。</p> <p><初年度事業目標> 30名のママリーダーを認定。(1分野における認定者)</p> <p><初年度事業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 広報：大和市を中心に全市の母親に事業実施の広報活動を行う 2. 説明会：事業内容を母親に説明する(参加者：80名) 3. 自分の得意な分野について認定を受ける(書類審査) <p>以下を例とするような認定分野1項目について自分が知っている知識や実施している活動を書類審査によって認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理：乳幼児の健康を考えた食事メニューの提案、調理。 ・被服：乳幼児のための衣服やカバン作り ・住環境：乳幼児の日常生活に危険がないような家具などの提案 ・遊び：乳幼児と大人がコミュニケーションを図れる遊びの知識、実施 ・体育：リトミックなど、乳幼児の健康を増進する体育の知識 ・絵本：乳幼児と大人が共に楽しめる絵本の提案や読み方の指導 ・その他：母親が他者に伝えたい知識を柔軟に認定 <ol style="list-style-type: none"> 4. 認定者には「子育てバッジ」を贈呈し、ママリーダーとして他の母親との積極的なコミュニケーションを期待する。 5. 他の分野においても認定されるように他のママリーダーと知識の交換 <p>3. に提示した項目のうち、いくつでも認定を受けることができる。同様に「子育てバッジ」を贈呈する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 学問的にも知識を身につける(講師によるセミナー受講) <p>地域ぐるみの子育てには学問的な知識を持つ人が必要であるため、希望者にはセミナーを受講してもらい、以下を例とする知識を身につけてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育 ・発達心理学 ・救急法 ・幼児教育 ・その他、母親の要望に応じて子育てに望まれる知識 <ol style="list-style-type: none"> 7. 学問分野に関しては認定試験を受験 <p>学問分野については、認定試験を作成し一定基準以上の知識を有すると認定された人には、「子育てバッジ」および「表彰状」を贈呈する。</p> <p>最終的には、ママリーダーのうち20%程度の人には学問認定をしたい ママリーダーが関わる子育て活動については以下のような支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報 ・活動場所提供 ・その他 主催者側に求められた支援において可能なもの
6. 提案者の市に期待すること	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動 4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整 7. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・認定基準策定の協力 ・認定審査員の派遣 ・表彰時、会議時の会場提供

7. 公開検討会での検討内容		1)協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階	2)具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階	3)政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)
	提案者の判断			
	担当課の判断	(児童育成課)		
	推進会議委員からのアドバイス	(7)	(1)	
()は公開検討会当日のコメント数を表示				
8. 提案事業の方向性	協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他(行政による事業への協力)			
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・提案者の捉えている地域における子育てコミュニティ形成の希薄化や日常、子育て相談ができる人がいないために感じている親の疲労感という現状認識から出された想いを受け止めたい。 ・提案者は認定の対象として、特技(料理・被服・遊び・絵本など)をあげている。特技を活かした子育ての人材の育成・コミュニティ形成を提案していると理解する。 ・ただし、事業として実施していく内容が、提案者の中でまだ固まっていないように感じる。今年度は、きちんと議論して基準作りに取組んでほしい。 ・市は、協働事業として基準作りにあたっての協力をお願いしたい。 			
10. 市に対して具体的に検討を要請する事項	協働事業として推進することとあわせ、基準作りを提案者と協議するにあたっては、次のような点を配慮してほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人が認定するものが、市民に対し市が認定しているものと誤解されないようにすること。 			

1. 事業名	移動制約者の外出介助サービス事業			
2. 提案者	NPO 法人 たんぼぼ			
3. 担当課	福祉総務課、障害福祉課			
4. 事業の目的	障害者や高齢者等の移動制約者が外出の際の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることを目的に「外出介助サービス事業」を実施していきたい。			
5. 事業の内容	<p>当法人は、2004年12月に社会貢献活動を行おうとの趣旨で結成され、具体的活動分野を模索した。</p> <p>その結果、外出介助サービスを選択し、他のNPO団体の視察を行い、外出介助を必要とするお年寄りや障害のある方の、通院や買い物など外出の交通手段の一つとして、大和市及び神奈川県が平成16年度に「福祉有償運送セダン型車両特区」の認定を受けたことから、当法人も昨年10月より一般車両によるサービス提供を実施している。</p> <p>活動内容は、タクシー業界との住み分けが必要であることから、会員制(入会金3000円、年会費無料)で、また、運転会員と利用会員が対等な立場を保てるよう低廉な料金(基本料450円、走行料40円/km、介助料金450円/30分)を頂き、運転会員への謝礼及び会運営費に充当している。</p> <p>更に、本年1月には、日本財団より福祉車両(リフト付き車イス車両)の寄贈を受け、乗降時における利用者の身体的負担も軽減できるようになった。18年5月現在 運転会員 6名、サービス利用会員 17名</p>			
6. 提案者の市に期待すること	<p>1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動</p> <p>4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整</p> <p>7. その他 【福祉車両保管場所の提供】</p>			
7. 公開検討会での検討内容		1) 協働事業の実施に向けて具体的な協議に入っていくことができる段階	2) 具体的な協議に入る前にもう少し調整が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)
	提案者の判断			
	担当課の判断	(障害福祉課)		
	推進会議委員からのアドバイス	(4)		
	()は公開検討会当日のコメント数を表示			
8. 提案事業の方向性	<p>協働事業として推進してほしい</p> <p>行政への政策提案として受け止めてほしい</p> <p>市民事業として事業を実施してほしい</p> <p>その他(行政による事業への協力)</p>			

<p>9．協働推進会議の提案事業に関するコメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は、非常に重要なものであると理解しているので協働事業として推進してほしい。 ・市職員がプライベートの場で市民活動に参加することは結構である。同時に、このように市職員が理事をしている団体の提案に協働事業として公金が支出される場合、市民から疑惑をもたれることのないよう、ルールを定めておくことが必要である。
<p>10．市に対して具体的に検討を要請する事項</p>	<p>協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律改正や、市の施策に変更が生じる場合は、協働事業の実績と関係を踏まえ、提案者等を含めた中で検討すること。 ・新たな福祉車両の駐車スペースの確保。 ・市職員が理事をしている等の団体が協働事業を提案する際のルールの作成。

1. 事業名	緑野青空子ども広場ツリーガーデン管理運営事業																		
2. 提案者	青少年センター																		
3. 事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・建設された「青空緑野子ども広場ツリーガーデン」を活用し、遊びを通して子ども達にチャレンジ精神・自立心・社会性等を養う。 ・世代間交流を促進し、物作りや新たな遊びの創造等、子どもの育成の場として活用する。 ・緑野青空子ども広場ツリーガーデンに関わる管理運営を推進する。 																		
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者と市が管理運営について協議し、役割を調整した上で事業展開を行う。 ・事業の詳細な内容については、管理運営委員会（仮称）を設立し、検討する。 																		
5. 提案者の協働事業者に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・緑野青空子ども広場「ツリーガーデン」施設に関わる管理運営計画を検討すること。 ・地域の教育力を活用した事業の企画及び運営を検討すること。 ・地域及び関連施設・団体との連携を検討すること。 ・その他青空子ども広場「ツリーガーデン」管理運営事業に必要な事項を検討すること。 																		
6. 行政提案支援チーム協議後の担当課の動き	<p>【チーム名:リーガーデンリーグ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツリーガーデン施設建設に向けて、地域団体と組織作りを進めた。 																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1)協働のパートナーの応募状況</th> <th>2)協働事業として取り組むためのアドバイス</th> <th>3)その他問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担当課より</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>応募者の想い</td> <td></td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(2)</td> <td>(4)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点	担当課より				応募者の想い		(1)		推進会議委員からのアドバイス	(2)	(4)	
	1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点																
担当課より																			
応募者の想い		(1)																	
推進会議委員からのアドバイス	(2)	(4)																	
8. 提案事業の区分	<p>協働事業として推進してほしい 協働事業として推進するにあたって考慮点あり</p>																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・提案担当課の事業の管理運営に関する構想について、応募団体が不安を感じている。応募団体の声を聞いた中で、運営を検討していくことが必要ではないか。 ・建設部分は行政主導による事業として進められているが、運営の部分だけを協働事業として提案しているところに、この提案の困難さがあるように感じる。 ・管理運営にかかる資金の面を協働事業で補おうという発想が基にあるとすれば問題である。 ・ツリーガーデンの構想について、全体的なビジョンが足りないように考える。応募団体との協議を通じて、ビジョンを作ってほしい。 																		

	<ul style="list-style-type: none"> ・大和市の公園など、子どもに関わる施設に対する考え方を示していく必要がある。
<p>10．市に対して具体的に検討を要請する事項</p>	<p>協働事業として推進するにあたっては、次の点に考慮が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用を含めた管理運営に関する役割分担の検討。

1. 事業名	水再生とみんなで作るビオトープ																		
2. 提案者	中部浄化センター																		
3. 事業の目的	<p>下水道は、市民が健康で快適な生活を営む上で不可欠な施設ですが、今日では、水の再生という視点から、水環境に大きく貢献する重要な施設としてもアピールする必要があると考えます。しかし、下水道施設が市民の目に付き難い場所にある事などから、アピールしにくいという側面があります。そこで、ビオトープをとおして水再生のメカニズムや水環境への理解を深めることにより、下水道の役割と必要性を認識してもらおうとするものです。</p> <p>また、これからのまちづくりの基本は、環境に負荷を与えずまちに自然を取り込み残していくことと言われており、都市化の進展により失われてきた自然を保全・復元しながら都市を再構築していくことが重要と考えますが、ビオトープは、こういったまちづくりの面からも大きな効果が期待できるものです。</p>																		
4. 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道のイメージアップ ・ビオトープの研究と推進 ・ネットワークづくり ・シンポジウムやセミナーの開催 																		
5. 提案者の協働事業者に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープの研究と推進 ・ビオトープネットワークづくり 																		
6. 行政提案支援チーム協議後の担当課の動き	<p>【チーム名：育て赤とんぼ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然保護等関係団体との調整は、広報(6/1号)の反響を見るまで敢えて行わないことにした。 ・大和市内での事例として、下福田中学校のビオトープ(ほたる池)を視察した。 																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1)協働のパートナーの応募状況</th> <th>2)協働事業として取り組むためのアドバイス</th> <th>3)その他問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担当課より</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>応募者の想い</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(2)</td> <td>(3)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点	担当課より				応募者の想い				推進会議委員からのアドバイス	(2)	(3)	
	1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点																
担当課より																			
応募者の想い																			
推進会議委員からのアドバイス	(2)	(3)																	
8. 提案事業の区分	<p>協働事業として推進してほしい 協働事業として推進するにあたって考慮点あり</p>																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を中心に、はじめから市民が関わって作り上げる姿勢は協働事業として素晴らしい。 ・検討段階から専門家の意見を聞きながら、生態系に配慮したビオトープづくりを進めてほしい。 																		

10. 市に対して具体的に検討を要請する事項

協働事業として推進するにあたって、次の点について検討をお願いしたい。

- ・ 専門家・企業・地域住民を含めた検討体制。
- ・ 生態系に配慮したビオトープづくり。

1. 事業名	「男女共同参画」わたしが変われば、社会も変わる事業																		
2. 提案者	市民活動課																		
3. 事業の目的	より多くの市民に対し男女共同参画の意識を浸透する。																		
4. 事業の内容	<p>平成18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に学び合い、共に行動することができる市民の募集 アドバンスメンバー（事業の企画・運営・PR） 10名程度 サポーター（事業の運営PRの協力） ・チームメンバーとして登録 ・学習や意見交換等と通じてのチーム作り ・市民団体の設立 <p>平成19年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の会との協働啓発事業の実施 																		
5. 提案者の協働事業者に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・事業（セミナー・キャンペーン等）の企画、運営、PR ・情報誌の取材・協力 ・男女共同参画に関する学習・情報収集 																		
6. 行政提案支援チーム協議後の担当課の動き	<p>【チーム名：さくらんぼ積み作戦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業名を「『男女共同参画』 わたしが変われば、社会も変わる」に変更 ・本年度の募集期間を8月までとした ・3年後の活動目標を設定 																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1)協働のパートナーの応募状況</th> <th>2)協働事業として取り組むためのアドバイス</th> <th>3)その他問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担当課より</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>応募者の想い</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td></td> <td>(7)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点	担当課より				応募者の想い				推進会議委員からのアドバイス		(7)	
	1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点																
担当課より																			
応募者の想い																			
推進会議委員からのアドバイス		(7)																	
8. 提案事業の区分	<p>協働事業として推進してほしい 協働事業として推進するにあたって考慮点あり</p>																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・事業への想いをもち自主的に参画する人を集めたことは素晴らしい。 ・個人の力をチーム(設置していく予定の団体)の力に変えていきながら、団体との協定締結を進めてほしい。 																		
10. 市に対して具体的に検討を要請する事項	<p>協働事業として推進するにあたって、次の点について検討をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募者の想いが活かされる団体作りの検討。 ・男女共同参画に取り組んでいる団体の参加の検討。 																		

1. 事業名	ドッグラン設置事業																		
2. 提案者	水と緑課																		
3. 事業の目的	実際に利用する市民により、自分たちの利用しやすいドッグランを設置することと、施設を利用する市民による利用に当たってのルール作りをすることを目的とする。また、事業を通して、愛犬家のマナー向上及び施設周辺住民との相互理解を目指す。																		
4. 事業の内容	委員会形式で、施設の計画及びルール作りを行う。																		
5. 提案者の協働事業者に期待すること	・参加者の募集、ファシリテーター、施設の計画及びルール作りのための情報・意見の提供、施設の運営																		
6. 行政提案支援チーム協議後の担当課の動き	【チーム名：ワンワン倶楽部】 ・愛犬団体との連携：市内の愛犬家3団体と協議を持つ。 ・あおばドッグランを視察する。 ・プレゼンテーション準備																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1)協働のパートナーの応募状況</th> <th>2)協働事業として取り組むためのアドバイス</th> <th>3)その他問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担当課より</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>応募者の想い</td> <td></td> <td>(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(1)</td> <td>(3)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点	担当課より				応募者の想い		(3)		推進会議委員からのアドバイス	(1)	(3)	
	1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点																
担当課より																			
応募者の想い		(3)																	
推進会議委員からのアドバイス	(1)	(3)																	
8. 提案事業の区分	協働事業として推進してほしい 協働事業として推進するにあたって考慮点あり																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめから市民等と相談しながら進めていく行政提案の協働事業は素晴らしい。 ・大和市らしい、地形・自然環境に配慮したドッグランの設置を検討してほしい。 ・市民の中には、犬の嫌いな人もいます。ドッグランを設置することの説明・PRが重要であると考えます。 																		
10. 市に対して具体的に検討を要請する事項	協働事業として推進するにあたって、次の点について検討をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・地形・自然環境に配慮したドッグランの設計。 ・ドッグランの設置について、行政としての説明責任を果たすこと。 																		

1. 事業名	地域防犯活動「レベルアップ」事業																		
2. 提案者	安全なまちづくり課																		
3. 事業の目的	安全に暮らせるまちをつくること。																		
4. 事業の内容	<p>【実施内容】</p> <p>犯罪の発生状況をもとに、最も効果的な防犯活動の方法と対象となる防犯活動の実施団体等を協働事業者と協議し決定する。その上で、協働事業者が講習や実技指導などを行う。</p> <p>(例) 防犯パトロールの指導、安全マップの作成指導、防犯講習会など</p> <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応募期間 平成18年 7月31日迄 ・ 選考期間 平成18年 8月21日迄 ・ 協定締結 平成18年 9月10日迄 ・ 準備期間 平成18年 9月30日迄 ・ 実施開始 平成18年10月 1日 																		
5. 提案者の協働事業者に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な防犯活動の方法や対象となる実施団体の検討 ・ 講習会の講師や実技指導など 																		
6. 行政提案支援チーム協議後の担当課の動き	<p>【チーム名：グリーンレディチーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施要綱(案)、実施要綱施行細則(案)、選考基準(案)を作成した。 ・ 関係団体に事業の説明を行った。 																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1)協働のパートナーの応募状況</th> <th>2)協働事業として取り組むためのアドバイス</th> <th>3)その他問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担当課より</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>応募者の想い</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(1)</td> <td>(1)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点	担当課より				応募者の想い				推進会議委員からのアドバイス	(1)	(1)	
	1)協働のパートナーの応募状況	2)協働事業として取り組むためのアドバイス	3)その他問題点																
担当課より																			
応募者の想い																			
推進会議委員からのアドバイス	(1)	(1)																	
8. 提案事業の区分	<p>協働事業として推進してほしい</p> <p>協働事業として推進するにあたって考慮点あり</p>																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考過程を明確にしていくことを当初から求めている。 ・ 協働よりも委託先を選考するというような感じがあるが、複数の応募者による協働事業の可能性も検討してほしい。 																		

10. 市に対して具体的に検討を要請する事項

協働事業として推進するにあたっては、次の点に考慮が必要。
・応募者が複数あった場合、複数団体との協働事業の可能性の検討。

1. 事業名	青少年自立支援事業
2. 提案者	NPO 法人 かながわ就職支援研修センター
3. 担当課	青少年センター、産業振興課
4. 事業の目的	<p>多くの悩みを抱え自ら動くことができない、目標が見えずどうすればよいか分からない若者達が多く存在しています。ニートとかフリーターとか別称でまとめられていますが、個々人は、それぞれの課題があり自ら解決できないで苦しんでおります。グループワークを基幹としたセミナーと個別カウンセリングをミックスさせ、仲間意識(自分と同じ様な体験を持つ仲間が存在し一人ではない)を醸成しながら、また自己肯定観も育成することで自分の「ありたい姿」を明確化していきます。そして、自ら社会の経済活動に参加し、自らの力で生活していけるように支援して行きます。これまで出会ってきた若者達が自立し、生き生きと働いている例も多く経験しており、一人ひとりに焦点をあてたきめ細かい支援が目標でありこれまでも実践して来た。</p>
5. 事業の内容	<p>大きな心的トラブルや、発達障害を抱えているケースは別として、これまでの臨床例から、殆どの若者に自己肯定観が欠如していると言える。自己肯定観がなければ常にあきらめの気持ちか、または自責の傾向が強くなってしまう。</p> <p>当事業の展開は 自己肯定観の養成 仲間意識の育成(コミュニケーション能力の理解と強化) 自己理解と分析 目標の明確化 就職に必要なスキル(応募書類の書き方、面接の受け方) ビジネスマナーなど常識的な分野を含め、若者個々が就職に向かうための意欲の向上や戦略的な就職活動ができるように支援する。ワークセッションと個別カウンセリングに焦点をあて、今迄満たされていなかった精神的課題にも踏み込みながら、自立に向かえるようにしていく。支援する側は複数で臨み、産業カウンセラーやキャリアコンサルタントが対応するので、彼らとの接点に垣根を設けることなく、非常に良好な人間関係を構築していくことができる。本音で語れる場が提供されるとともに、個々人が心を解放し温かいストロークを沢山受ける体験をして、次第に自己肯定観が育成される。そして個人の芯が出来上がっていく。</p> <p>これまでも5日間、30時間のセミナーを実施してきたが、これぐらいの時間を持つことができれば、ほぼ満足のいく結果が期待出来る。</p> <p>先駆性 : 多くのニートに対する臨床例を保有している者が対応する。経験が豊富である。設営されれば親へのカウンセリングも可能である。</p> <p>特記事項: 専門家が集団で関わりを持つ。手厚い対応が可能である事。</p>
6. 提案者の市に期待すること	<p>1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動</p> <p>4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整</p> <p>7. その他 協働事業は理解できるが、経費対応に柔軟性が欲しい。</p>

7. 公開検討会での検討内容		1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討 (協働事業以外に行政ができることの提案)
	提案者の判断			
	担当課の判断		(産業振興課)	(青少年センター)
	推進会議委員からのアドバイス		(5)	(3)
()は公開検討会当日のコメント数を表示				
8. 提案事業の方向性	協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他(行政による事業への協力)			
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> 調整の中では、提案者も担当課も提案内容に対する具体的な方策を有していないことが感じられた。 提案者と担当課の想いが異なることから、現状では協働事業として事業を実施していくことは難しいと考える。 ニートといわれる方への支援は、地域だけで行うことは難しく、全国的なネットワークや学識者の専門性を活用していくことが必要である。 他の市民活動団体との連携により、取組んでいくというように切り口を変えていくことが必要ではないか。 市民事業として、提案内容に取り組み際に、行政も支援をしていくことが大切であると考えます。 			
10. 市に対して具体的に検討を要請する事項	提案者が事業を推進していくために、次の点について検討をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> これまで実施してきた就労支援に関する事業が協働事業から市の自主事業へ転換される際の提案者の関わり。 市民事業として提案者が取り組む際の支援の方法。 			

1. 事業名	地域と学校の連携による大和市新渋谷中学校学校開放事業																		
2. 提案者	渋谷きんりん未来の会																		
3. 担当課	生涯学習センター																		
4. 事業の目的	大和市立渋谷中学校の生徒のみならず、地域住民にとっても学びの場とし、地域に密着した学校開放を推進し、「地域に根ざし、地域の未来を担う学校づくり」を実現することを目的とします。																		
5. 事業の内容	<p>平成 18 年度事業の項目と基本方針を示します。詳細は事業計画書をごらん下さい。</p> <p>(1) 会議室、特別教室の市民への貸し出しなどを通じた市民活動の活性化事業 本年度は、昨年度までの事業をより発展させ、利用者ニーズの把握を基に、地域活動の活性化を目指した具体的な支援を行います。また、広く団体や個人の利用を促すため、積極的に取り組みます。</p> <p>(2) 下和田地区の児童館機能、子どもや保育者、中高生、高齢者などの居場所としての事業対象者を、親子、小学生、中高生、高齢者などに大きく分け、それぞれのニーズに合った活動、世代間の交流を促進するような活動を関係者と共に企画し、検討・実施していきます。また、よりよい場を提供できるよう、スタッフの研修会等も実施していきます。本年度も文部科学省委託事業を申請します。</p> <p>(3) 閉校した下和田小学校の思い出を伝える事業 元下和田小学校の保護者・教員・卒業生の力を集め、事業を推進していきます。</p> <p>(4) 国際交流や外国人青少年の支えあいの場としての事業 地域の外国人青少年のグループの活動の支援を行います。大和市教育委員会後援の学習支援活動も継続して行います。</p> <p>(5) 環境教育の支援事業 環境教育諸団体に協力を得て企画を推進します。</p> <p>(6) 情報発信事業 活動を紹介するホームページを、充実させ、適宜更新します。 地域への回覧による情報紙『下和田の郷通信』を発行し、中学校や地域に活動情報を発信します。また、小学生向けに各月の『行事のお知らせ』を発行し、近隣の小学校に配布します。</p>																		
6. 提案者の市に期待すること	1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動 4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整 7. その他																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1) 協働事業として継続ができる段階</th> <th>2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階</th> <th>3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提案者の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当課の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(1)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)	提案者の判断				担当課の判断				推進会議委員からのアドバイス	(1)		
	1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)																
提案者の判断																			
担当課の判断																			
推進会議委員からのアドバイス	(1)																		

<p>8 . 提案事業の方向性</p>	<p>協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他（行政による事業への協力）</p>
<p>9 . 協働推進会議の提案事業に関するコメント</p>	<p>・地域・学校との連携を深める中で、継続して協働事業として実施してほしい。</p>
<p>10 . 市に対して具体的に検討を要請する事項</p>	<p>協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。 ・学校との連携を深めるための工夫。</p>

1. 事業名	子育て家庭サポート事業																		
2. 提案者	NPO 法人 ワークス・コレティブ ファイールドケア																		
3. 担当課	児童育成課																		
4. 事業の目的	子育て中の家庭に対する育児支援等を、行政とNPOが協働して行うことにより、安心して子どもを育てられる環境をつくる。																		
5. 事業の内容	<p>(1) 市内の公的な保育施設や児童ホームの開設時間や制度が利用者のニーズにマッチしていないことを補完する事業 保育園・幼稚園等の送り迎え 保育園、幼稚園、学童保育終了後の預かり 保育園、幼稚園、学校等の登園、登校時間までの預かり 保育園、幼稚園、学校を軽い病気でお休み中の預かり</p> <p>(2) 子育て中の家庭の精神的、肉体的な負担を軽減するための支援事業 親がお出かけ中の預かり 親が病気中の預かり 親が多忙又は休養中の預かり 親が産褥中の家事(食事の支度・掃除・洗濯等)・買物 新生児の沐浴</p>																		
6. 提案者の市に期待すること	1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動 4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整 7. その他																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;">1) 協働事業として継続ができる段階</td> <td style="width: 25%;">2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階</td> <td style="width: 25%;">3) 政策提案、市民事業の可能性を検討 (協働事業以外に行政ができることの提案)</td> </tr> <tr> <td>提案者の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当課の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> <td></td> </tr> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討 (協働事業以外に行政ができることの提案)	提案者の判断				担当課の判断				推進会議委員からのアドバイス	(1)	(1)	
	1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討 (協働事業以外に行政ができることの提案)																
提案者の判断																			
担当課の判断																			
推進会議委員からのアドバイス	(1)	(1)																	
8. 提案事業の方向性	協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他(行政による事業への協力)																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで協働事業を通じて、市民の多様なニーズに応えてきたという実績があることを理解している。 ・今後も利用者のニーズにあったサービスが提供できるよう、担当課は、ファミリーサポートセンターに移行した時にサービスが低下することがないように、不足する部分は協働事業として事業を継続してほしい。 																		

10. 市に対して具体的に検討を要請する事項	協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。 ・法律改正や、市の施策に変更が生じる場合は、これまでの協働事業を継続してきた実績と関係を踏まえ、提案者等を含めた中で検討すること。
------------------------	---

1. 事業名	移動制約者の外出支援事業																		
2. 提案者	NPO 法人 ワークス・コレティブ ケアビーくる																		
3. 担当課	障害福祉課、高齢介護課、都市総務課																		
4. 事業の目的	障害者や高齢者等の移動制約者が外出の際の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることと目的に実施する。																		
5. 事業の内容	<p>移動介助事業（当団体が所有する福祉車両、当団体に使用権原のあるセダン型車両、および会員の介助・運転技能を社会資源として活用する） コミュニティ・バスのDRT的活用についての調査研究 DRT（Demand Responsible Transport）とは... 利用者の要求に応じ、路線、バス停、ダイヤを変更することが可能で、主として需要の低い地域に対応したバスシステム</p>																		
6. 提案者の市に期待すること	<p>1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動 4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整 7. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 福祉車両の保管場所や情報等の提供 福祉車両の維持費（任意保険料、車検費用等）等の負担 コミュニティ・バス有効活用に関する調査研究組織の立上げ 																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1)協働事業として継続ができる段階</th> <th>2)協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階</th> <th>3)政策提案、市民事業の可能性を検討（協働事業以外に行政ができることの提案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提案者の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当課の判断</td> <td>(障害福祉課)</td> <td></td> <td>(都市総務課)</td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td>(1)</td> <td></td> <td>(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1)協働事業として継続ができる段階	2)協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3)政策提案、市民事業の可能性を検討（協働事業以外に行政ができることの提案）	提案者の判断				担当課の判断	(障害福祉課)		(都市総務課)	推進会議委員からのアドバイス	(1)		(1)
	1)協働事業として継続ができる段階	2)協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3)政策提案、市民事業の可能性を検討（協働事業以外に行政ができることの提案）																
提案者の判断																			
担当課の判断	(障害福祉課)		(都市総務課)																
推進会議委員からのアドバイス	(1)		(1)																
8. 提案事業の方向性	<p>協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他（行政による事業への協力）</p>																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> これまで協働事業を通じて、市民の多様なニーズに応えてきたという実績があることを理解している。 そのため、移送サービスに関しては、協働事業として事業を継続してほしい。 一方、地域公共交通に関する調査研究については、福祉施策との関連もあり、行政としてもすぐに取り組むことは難しく、現状では、行政への政策提案と考える。 																		

<p>10 . 市に対して具体的に検討を要請する事項</p>	<p>協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法律改正や、市の施策に変更が生じる場合は、これまでの協働事業を継続してきた実績と関係を踏まえ、提案者等を含めた中で検討すること。 ・ 地域公共交通に関する調査研究について、既存組織の活用など、提案者を含めた検討ができるような機会の検討。
--------------------------------	---

1. 事業名	身体障害者、高齢者の通院・外出サービス事業																		
2. 提案者	NPO 法人 大和市醫友会																		
3. 担当課	障害福祉課																		
4. 事業の目的	この事業の目的は、障害者、高齢者等の移動困難者に対して、外出の機会を提供することにより、社会参加による喜びや自己実現、また移動の自由、アクセス権の行使により、閉じこもりから脱却して人との交流や一緒に行動することにより、満足感を得たいと思っている人達を支援していくことにあります。																		
5. 事業の内容	ホームページを開設し、広く大和市民に当会の移送サービスを知ってもらうようにしていきます。 利用者に満足感を与えるサービス内容になる様に介護技術の向上、接客態度、料金、利用しやすさ、手軽さ、また利用したくなる様なサービス等、利用者本位の移送サービスを実施していきます。																		
6. 提案者の市に期待すること	1. 情報の提供・共有 2. 活動場所の提供 3. 広報活動 4. 説明会等への参加 5. 資金の分担 6. 行政機関等との連絡調整 7. その他 【広報やまとなどに当会の移送サービスについてのお知らせ等を掲載していただき大和市民に広く知ってもらう】																		
7. 公開検討会での検討内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%;">1) 協働事業として継続ができる段階</td> <td style="width: 25%;">2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階</td> <td style="width: 25%;">3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)</td> </tr> <tr> <td>提案者の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>担当課の判断</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>推進会議委員からのアドバイス</td> <td style="text-align: center;">(1)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>()は公開検討会当日のコメント数を表示</p>				1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)	提案者の判断				担当課の判断				推進会議委員からのアドバイス	(1)		
	1) 協働事業として継続ができる段階	2) 協働事業として継続するためにはさらに協議が必要な段階	3) 政策提案、市民事業の可能性を検討(協働事業以外に行政ができることの提案)																
提案者の判断																			
担当課の判断																			
推進会議委員からのアドバイス	(1)																		
8. 提案事業の方向性	協働事業として推進してほしい 行政への政策提案として受け止めてほしい 市民事業として事業を実施してほしい その他(行政による事業への協力)																		
9. 協働推進会議の提案事業に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで協働事業を通じて、市民の多様なニーズに応えてきたという実績があることを理解している。 ・そのため、協働事業として事業を継続してほしい。 																		

10.市に対して具体的に検討を要請する事項	協働事業として推進することとあわせて、次の点について検討をお願いしたい。 ・法律改正や、市の施策に変更が生じる場合は、これまでの協働事業を継続してきた実績と関係を踏まえ、提案者等を含めた中で検討すること。
-----------------------	---

大和市協働推進会議委員

代 表	渡辺 精子
委 員	池本 薫
	内海 麻利
	宇津木 朋子
	大野 一枝
	河崎 民子
	木之下 純
	小杉 皓男
	小原 俊明
	杉山 和子
	玉木 佑未子
	林 泰義
	平塚 恵一
	百瀬 比奈子
	坂内 哲夫
金守 孝次	

大和市協働推進会議 事務局ボランティア

スタッフ	関根 孝子
	中島 双美

大和市協働推進会議事務局

大和市民経済部市民活動課市民活動支援担当

〒242-8601 大和市下鶴間 1-1-1

TEL 046-260-5103 / FAX 046-260-5138

URL <http://www.city.yamato.lg.jp/katudo/katudo2/katudo-index.html>

【E-mail】 : katudo@city.yamato.lg.jp